「行ってみようよ！八ヶ岳大会」

５月の八ヶ岳大会の要項が発表されましたね！
会員様から質問があったりして、注目度が高い八ヶ岳大会。
拝見すると、新しい種目（右図赤字参照）を発見しました。

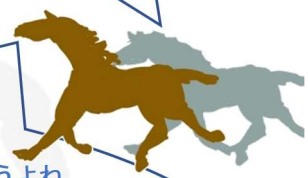
実行委員長の福田晋氏（以下敬称略）に、いろいろお伺いしました！

一般的なエンデュランス馬術競技会	八ヶ岳大会
日馬連公認競技 80km(EN80)	日馬連公認競技 80km(EN80)
60km(EN60)	60km(EN60)
40km(EN40)	40km(EN40)
トレーニングライド 60km	エンデュランス・ライド 60km（ローカル競技）
40km	トレーニングライド 40km
20km	20km
	チャレンジ・ライド 20km（ローカル競技）
	10km（ローカル競技）

質問 8-①：今年から、種目が格段に増えています。
本来の競技種目の他に、イベント的な要素を持つ楽しそうなものもありますね。
中でも、１頭が１つの大会で２走行する、資格がなくても参加できる、という「チャレンジ・ライド（ローカル競技）」は目を引きます。
誰の発想や要望で、こういう新しい種目を含めた大会になったのかお伺いできますか？
福田：八ヶ岳大会は、まず第一に競技性、各人馬のレベルをあげる為に日馬連公認競技をやります。
もうひとつは、それに至る為のステップアップ競技、兼、普及競技。あとは、完全な普及ライドですよね。
ご質問の新しい種目はこれです。
エンデュランスって何だろう？という人向けに作ったんですが、特に今回はここを手厚くやっています。

背景としては３つの問題があります。
- エントリー数が減っている
- 馬がいない
- 全乗振や日馬連の資格がないと、競技に参加できない

「馬がいない」というところから、
１頭の馬で２回の走行を、と、考えました。
馬には悪いかもしれないけど、
１頭で２人の選手を相手にしてもらう、という意図です。



「馬がいない」ってどういう事？？

エンデュランスにあまり詳しくない人だと
「馬がいない」っていう言葉はピンとこないかもしれないし、何で？って思うよね。
「エンデュランスに適性のある馬が現状の日本には潤沢にいないし、受け入れる環境が整っていない」
っていう事なんだ。
日本の乗馬に多いサラブレッドは、総合的にみるとエンデュランス適性があるとは言い難い。
更に、最盛期だった 2010-2015 年前後に活躍していたエンデュランスホースたちが高齢化している現状
があってね、でもそう簡単に馬を入れ替えることはできないじゃない？
だってさ、競技に出られないからといって、頑張ってくれていた馬達を捨てられないでしょ。
各乗馬施設のキャパシティは決まってて、簡単には厩舎・スタッフを増やせない、
適性のある馬も少ない、流通環境も整っていない…
そんな現状が「馬がいない」という表現になるんだ。

Copyright © 2023 Japan Endurance Ride Conference. All Rights Reserved.

あと、「資格がないと」いうところが、普段外乗をメインに営業しているような乗馬クラブによっては、エンデュランス競技への参加のネックになっているという話を聞いています。
外乗しかしないような乗馬クラブのお客様にもエンデュランス競技に興味をもってもらいたいという意図、つまり間口を広げたいという意図から、資格なしでも参加できる種目、と、考えました。

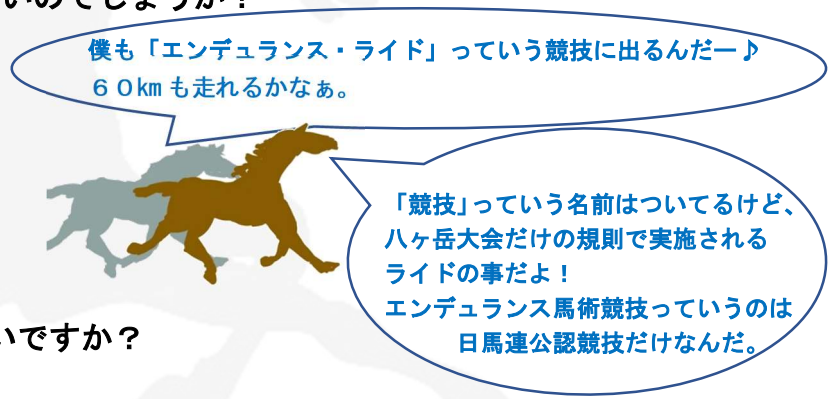
質問 8-②：さきほどお話しのありました、馬が２走行する、という種目、「チャレンジ・ライド」について、２つお聞かせください。
１点目＝エンデュランス競技では「1 日１頭に１選手」が大原則ですが、これは、さきほどの「馬がいない」という問題に対する苦肉の策、という事でしょうか？
２点目＝資格を持っていなくても参加できるとの事ですが、走行の条件は
資格を保持している選手が参加できる「トレーニングライド」と同様なのでしょうか？
外乗では時速の制限などはないと思うのですが。
福田：そうです。
エンデュランスで何を競うか？を考えた場合、「馬体管理」と「時間管理」だと思うんです。
まずは短い距離でその２つに触れてみようよ、という趣旨です。
日本でよく実施されている外乗は、極端に言うと、いいとか悪いとかではなくて、
『電車外乗（先導馬に習性習慣で仮想連結されている馬たちの集団外乗）』です、
でもエンデュランスは『電車外乗』ではない、そのあたりを感じてもらいたいな、と。
そのココロは、ライダーと馬との対話、つまりコミュニケーションを、
エンデュランスを通じて、短い距離でいいから実感してみてください、ということです。

質問 8-③：「どこで馬を借りればいいですか？」という質問がありました。
乗ってみたい、やってみたい、行ってみたい、という人がいる証ですが、一方で「馬がいない」という現状を冒頭でお話しされていました。こういった状況に対して、どのようにお考えですか？
福田：実行委員会としては、過去のプログラムなどで、こういったクラブが参加しています、という事はお伝えできます。
あとは、過去にエンデュランス競技をやっていたクラブに個別にお願いしているんですが、リストに載せていいよ、というところがあったら、これから活動を開始する山梨エンデュランス・ライド協会（ＹＥＲＣ＝八ヶ岳エンデュランス・ライド大会実行委員会を構成する中核団体の事）のリストに載せようかな、と思います。
実際、どこのクラブもひっ迫していて、うちも含めて馬は貸せない。
一方で、馬もお客様もそこそこいるけど、消化する試合が少ないですっていうクラブもあるんです。

Copyright © 2023 Japan Endurance Ride Conference. All Rights Reserved.

手つなぎゴールし完走した選手に贈られる盾

質問 8-④：それでは他の新種目、「エンデュランス・ライド」の新設についてお伺いします。
通常は公認競技と併催して行われるトレーニングライド 20km、40km、60km を設定する大会が多いですが、
八ヶ岳大会ではトレーニングライド 20km、40km と、60km の「エンデュランス・ライド（ローカル競技）」
というのを設定されていますね。60km はトレーニングライドではないんでしょうか？
福田：違います。早着がないんです。それと、競争してもらって、順位をつけるんです。
ゴール可能時間の設定がない事、手つなぎゴール＝同時刻の到着を認める事、順位をつける事、の３点がトレーニングライドと異なる点です。
質問：トレーニングライドでは、経験値の浅い人馬の安全な走行を念頭に時速の設定、つまりゴール可能時間の設定をするのが常ですが、この
「エンデュランス・ライド（ローカル競技）」では、その時間設定がないという事ですね？
出場できる人馬は、トレーニングライド 40km を完走した事のある人馬、という事でよろしいのでしょうか？
福田：そうです。



質問 8-⑤：ここで、「ローカル競技」という呼称がでてきましたが、新しく設定された、
・60km「エンデュランス・ライド」（ローカル競技）
・20km・10km の「チャレンジ・ライド」（ローカル競技）
これらは、「競技」なんですか？ローカルって何ですか？という質問が寄せられています。
この点についてお伺いします。
「ローカル競技」とは「ローカル・ルールを適用した非公認のライド」との認識でよろしいですか？
福田：そうです。日馬連は関係のないものです。
要項には「ローカル競技」と記載しておりましたが、その後検討した結果「ＹＥＲＣ競技」という名称にする事にしました。
「ＹＥＲＣ」とは「山梨エンデュランス・ライド協会」の事で、そこの独自のルールを適用した種目という事です。

質問 8-⑥：今年の八ヶ岳大会、どんな人に参加してほしいでしょうか？
福田：全日本を目指す人、世界選手権を目指す人にはＥＮ８０とかの公認競技で参加してほしいし、40km を完走した事のある人が
ステップアップする為にも参加してほしいし、でも、一番参加してほしいのは資格がなくても参加できる「チャレンジ・ライド」の人ですね。
短いところの底辺を広げたい。
とりあえず参加してもらって、こんなに楽しい、こんなにいい場所なんだよ、っていうのを伝えたいですね。
「馬と挑む小淵沢の山岳コースの素晴らしさ」も是非実感していただきたいです。

Copyright © 2023 Japan Endurance Ride Conference. All Rights Reserved.

質問 8-⑦：賞品の缶バッジを拝見しましたが、あれは楽しそうですね。
福田：これは「完走賞」として、使います。
集めて帽子につけていたりすると恰好いいでしょ。
この人結構走ってるんだな、とか、私も欲しいな、とか。

質問 8-⑧：最後に、参加を検討されている人、馬がいる人といない人といますが、
メッセージをいただけますか？
福田：普段皆さんが愛馬と接している日常の愛馬とのやり取り、
貴方のホースマンシップを実現する機会として
馬術という堅苦しい感じにはとらわれず、「長距離・長時間騎乗をするという発表会に出てみる」
という感じで参加してほしい。
もし、それが叶わないなら、クルーでもいいですし、まずは見に来てほしいです。

お忙しいところ、お時間いただきありがとうございました。

協会 HP でもご紹介している通り、エンデュランス馬術競技は時間とお金のかかる競技です。
現実として、エンデュランス馬術競技の人口が増えていない事、馬が高齢化している事、資格試験も都合よく開催できない事は、どの実行委員会でも認識しているのではないでしょうか。
それを打開したいという思い、「一度体験したい」「お財布が痛まない程度でちょっとだけ覗いてみたい」という人に興味をもってもらいたい、という実行委員長の熱い思い、お受け取り頂けていたら幸いです。

開催日は 5 月 19 日（金曜日）～20 日（土曜日＝走行日）、山梨県馬術競技場です。

雰囲気を味わうだけでも楽しいはず、八ヶ岳大会へ行ってみましょう！

お問い合わせは→ YERC Yamanasi Endurance Ride Conference. 山梨エンデュランス・ライド協会
ＨＰ　：yama-uma-en.net
メール：info-entry@yama-uma-en.net

文責：日本エンデュランス・ライド協会　杉山

Copyright © 2023 Japan Endurance Ride Conference. All Rights Reserved.